

## 統合医療から見たアフェレシス治療

ふれあい町田ホスピタル血液浄化センター

阿岸鉄三

世界中の先進国は、統合医療 ( integrative medicine ) へ向かっている。わが国だけがその風潮に取り残されている。統合医療は、20 世紀末、現代医療がその科学技術至上主義に行き詰まりを見せたと考えられたころに、代償的に、必ずしも、科学的には、理解・説明されない補完・代替・伝統医療などにも関心がもたれるようになったときに、生まれた概念である。integration は、完全に、積分するという意味がある。統合医療とは、現代科学的医療と、非科学的医療などを統合して次元を変え、より完全性を目指すものと理解される。その根底には、時代の風潮である聖職階級主義 hierarchism 思想から、すべてのものが等価値で、果てしなく緩やかに連携するネットワーク思想への同調があると指摘できる。科学 Science の sci- は、切る・分析する意味である。アフェレシス治療において、plasmapheresis・cytapheresis を目指すとき、分化的・分析的である。一方、アフェレシス治療を、血液浄化のスペクトラムで表現される大きな医療技術分類である血液浄化療法の一手法であると理解するとき、統合的理解である。標準的血漿分離・交換は、分化的・分析的であるが、二重濾過血漿分離交換は統合的である。閉塞性動脈硬化症の治療に、薬物療法～アフェレシス治療～外気功まで応用するのは、統合医療の具体的な展開である。進化は、分化と統合の過程であるといわれる。アフェレシス治療においても、分化と統合が実現されている。